

政策評価書（要旨） （事前事業評価）

事業名	ミサイル護衛艦（7,700トン型）の建造	担当部局	防衛局計画課
政策分野	防衛力整備	実施時期	13年6月～8月

事業内容	防空能力・C4I能力に優れたイージスシステムを搭載するDDG1隻の建造に着手する。	14	15	16	17	18	完了年度：H18年度 経費総額：1,497億円
		調達				配備	
所要経費	1,497億円	← たちかぜ除籍 →					

評価の内容

事業の目的	事業実施の効果・時期
<p>平成18年度に見込まれるDDG1隻の減勢に対応するため、その代替・更新として整備する。 ミサイルの高性能化等による経空脅威の高まりに対応していくため、防空能力に優れたイージスシステム搭載型DDGを導入し護衛隊群における防空能力の維持・向上を図る。</p>	<p>本事業を実施することにより、平成18年度に見込まれるDDG1隻の減勢に対し間断なく対応することが可能となる。 経空脅威の高まりに対応し、護衛隊群における防空能力の維持・向上を図ることが可能となる。 14年度に建造着手分については、18年度に就役予定。</p>
事業の必要性・適正性	
<p>近年の軍事科学技術の進展に伴う経空脅威に対応するためには、軍事科学技術の進展に対応しつつ、護衛隊群の防空中枢艦として相応しい艦隊防空能力を備えることが必要である。 護衛艦隊旗艦についても、護衛艦隊司令部が作戦海域等において洋上司令部として隷下部隊を指揮するため、十分な情報・指揮通信能力、司令部収容能力、区域防空能力等を有するDDGを充てることが妥当である。</p>	

今後の対応

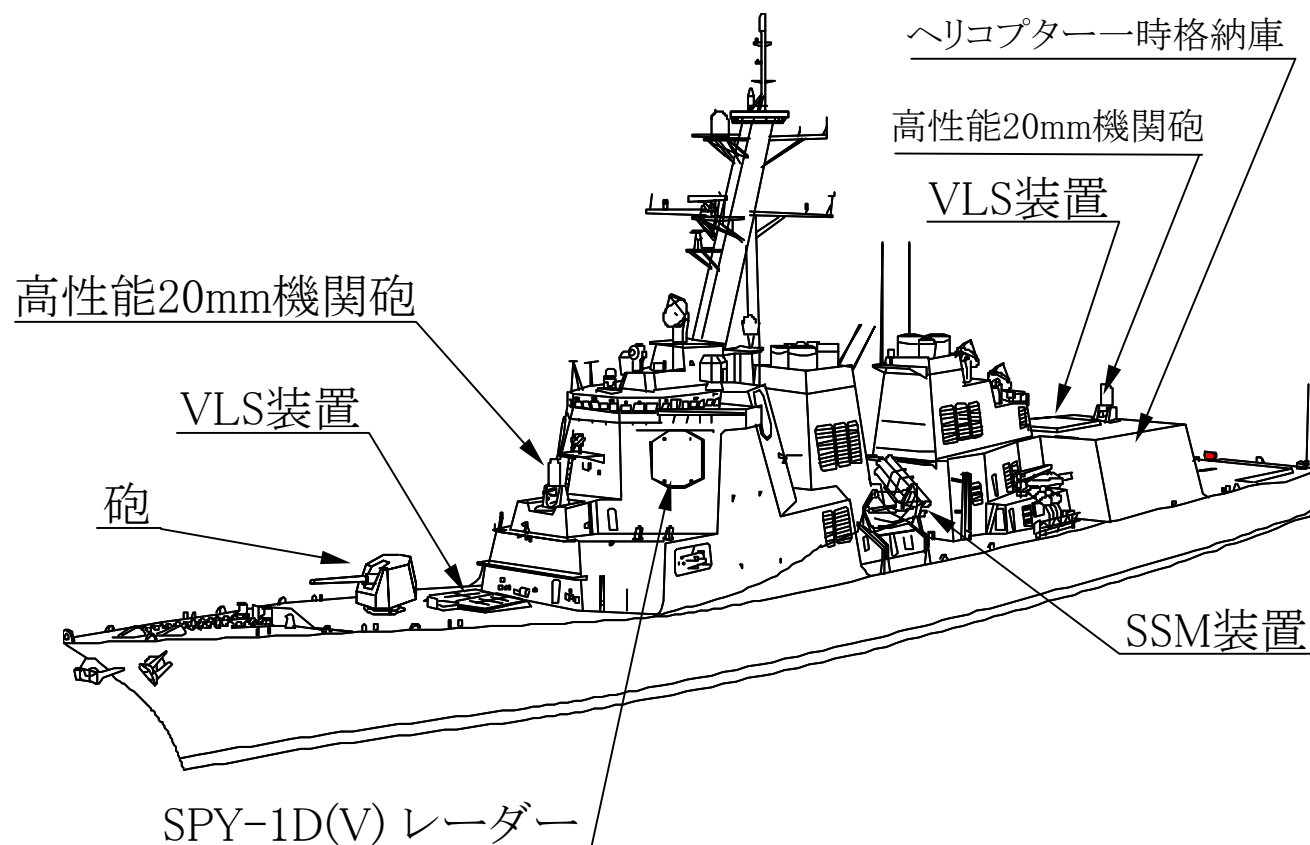
その他の参考情報

<p>平成18年度に見込まれるDDG1隻の減勢に対し間断なく対応することが可能となること、軍事科学技術の進展に対応した艦隊防空能力を維持することが可能となることなどの観点から、平成14年度に所要の予算要求を行う。</p>	
--	--

## 参 考 資 料

- 別紙第1 14DDGの概要図
- 別紙第2 ミサイルの高性能化・小型化のすう勢
- 別紙第3 イージス護衛艦主要性能対比表
- 別紙第4 イージスシステムとターターシステムの性能比較
- 別紙第5 基幹部隊の見直し及び主要事業(海上自衛隊)

# 14DDGの概要図



## SPY-1D(V) レーダー

SPY-1レーダーの最新型。レーダー出力増加等により、探知能力向上が図られる。

## VLS装置

垂直発射方式のミサイル・ランチャー。

## 砲

62口径5インチ砲を搭載する。

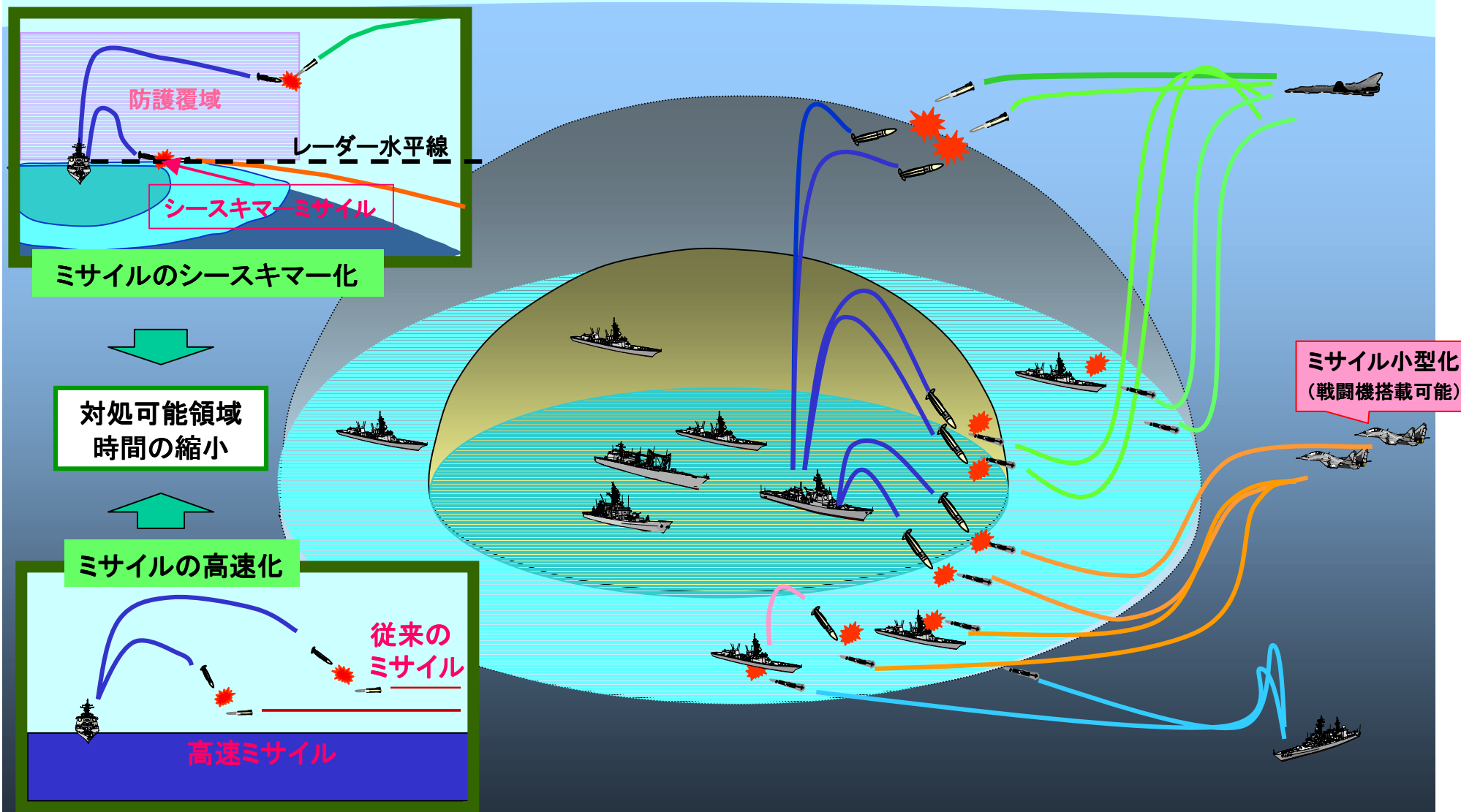
## 高性能20mm機関砲

20ミリ・ガトリング砲と捜索/追尾レーダーを組み合わせた近距離防空システム。

## SSM装置

艦対艦ミサイル発射器のこと。  
SSM-1Bを搭載する。

# ミサイル高性能化・小型化のすう勢



## イージス護衛艦主要性能対比表

		14DDG	05DDG「ちょうかい」		
基準排水量		7,700トン	7,250トン		
最大速度		約30ノット	約30ノット		
機関形式(軸数)		COGAG(2軸)	COGAG(2軸)		
主要装備	砲 ころう	5インチ砲 高性能20ミリ機関砲	1基 2基	127ミリ砲 高性能20ミリ機関砲	1基 2基
	ミ サ イ ル	イージス装置(VLS) SSM装置	1式 1式	イージス装置(VLS) SSM装置	1式 1式
	水 雷	アスロック装置(VLA) 魚雷発射管	1式 2基	アスロック装置(VLA) 魚雷発射管	1式 2基
	情 報	対空レーダー(SPY-1D(V))	1基	対空レーダー(SPY-1D)	1基
そ の 他		ヘリコプター一時格納庫 レーダー反射面積低減対策		ヘリコプター甲板	

イージス装置については、最新のものを装備。  
 なお、05DDG搭載のイージス装置は現在生産されていない。

## イージスシステムとターターシステムの性能比較

	ターターシステム	イージスシステム
レーダー探知覆域	百数十 km 以上	数百 km 以上
リアクションタイム		ターターシステムの約 1 / 2 以下
同時対処可能目標	数 目 標	十 目 標 以 上
最 大 射 程	1 8 k m 以 上	1 0 0 k m 以 上
電 子 戦 能 力	中程度の妨害にほぼ対処可能	強度の妨害に対処可能

※ リアクションタイムとは、対空レーダーが目標を捕捉してから最初の対空ミサイルが発射されるまでの時間のこと。

## 基幹部隊の見直し及び主要事業（海上自衛隊）

区		分	防衛大綱水準	前中期防完成時 (12年度完成時)	中期防完成時	中期防における主要事業
海上自衛隊	基幹部隊	護衛艦部隊(機動運用)	4 個護衛隊群	4 個護衛隊群	4 個護衛隊群	・ 1 個護衛隊を廃止
		護衛艦部隊(地方隊)	7 個隊	8 個隊	7 個隊	
		潜水艦部隊	6 個隊	6 個隊	6 個隊	
		掃海部隊	1 個掃海隊群	1 個掃海隊群	1 個掃海隊群	
		陸上哨戒機部隊	1 3 個隊	1 3 個隊	1 3 個隊	
	主要装備	護衛艦	約 5 0 隻	5 3 隻	5 2 隻	・ 護衛艦 5 隻を整備
		潜水艦	1 6 隻	1 6 隻	1 6 隻	・ 潜水艦 5 隻を整備
		作戦用航空機	約 1 7 0 機	約 1 7 0 機	約 1 7 0 機	・ SH-60J及びSH-60J改 39機、 新掃海・輸送ヘリコプター 2機を整備

この他、中期防では、その他の自衛艦15隻を整備。

### 「中期防衛力整備計画（平成13年度～平成17年度）」（抜粋）

#### 2 周辺海域の防衛能力及び海上交通の安全確保能力

(1) 艦艇については、護衛艦、潜水艦、掃海艇、ミサイル艇等を建造する。護衛艦の建造に当たっては、護衛艦部隊全般の効率的な在り方に留意しつつ、更新・近代化を推進することとし、特に、ミサイル護衛艦（DDG）については対空能力の充実を図るとともに、ヘリコプター搭載護衛艦（DDH）については指揮通信機能及びヘリコプター運用能力等の充実を図る。

(2) 航空機については、現有の固定翼哨戒機（P-3C）の能力向上のための改修を引き続き行うとともに、哨戒ヘリコプター（SH-60J及びSH-60J改）及び新掃海・輸送ヘリコプターを整備する。